

新規事業 ネパール 遠隔地の学校における教室改修支援事業

— 教室と女子に配慮したトイレの改修を通じて、子どもたちが安心して、質の高い学習ができる環境を実現する —



活動地域: ネパール北西部カルナリ州スルケット郡ビレンドラナガル
 事業期間: 2023年8月1日～2024年6月30日(11か月)
 事業規模: 当年度支出額1,824千円
 主な支援者: 株式会社えがおホールディングス

362人

支援を受けた生徒の数(うち女子189人)

62人

「水と衛生」と「月経衛生管理」についての研修に参加した生徒の数(うち女子39人)

2

本事業により達成したPMECs指標*の数

*PMECs指標とは、質の高い学習環境をつくるための以下の1～5の前提条件または基本的条件を指します。

1. 適切な教室、2. 適切な生徒と教師の比率、3. 無料の教科書の適時提供、4. 女子用トイレ、5. 図書館



課題

ビレンドラナガルの最も人里離れた山の上に位置するネパール・ラストリヤ校には、5歳から16歳までの児童が在籍し、22パーセントの在校生が社会から疎外されたダリットや先住民のコミュニティに属しています。地域で唯一の学校で、大半の生徒が2時間かけて通学しています。インフラの不足により、PMECs指標を満たすのに苦慮している同校では、教室数が不足しているため、2つの異なる学年の生徒が、多学年方式によって同じ教室で授業を受けています。また、過去に2つの教室からなる校舎の建設に着手し、土台と屋根は完成したものの、資源不足のため校舎は未完成のまま。その結果、生徒たちは壁のない教室で勉強せざるを得ない状況にあります。水道も通っておらず、女子に配慮したトイレもありません。長期的に見て、このことが多くの女子が退学する理由の一つとなっています。

活動内容

主に、1) 教室と衛生設備の改修と2) 啓発活動を行いました。1) 教室と衛生設備の改修については、長年未完成のままとなっていた校舎の外壁の工事を実施しました。さらに、貯水タンクと生徒用の手洗い場のほか、生理用ナプキンを処理する設備を備えた女子に配慮したトイレを設置しました。また、2) 啓発活動については、女子に対する暴力や差別を含め、月経にまつわる社会的慣習や因習を払拭するため、思春期にある男女の生徒に対して、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)と月経期における衛生管理についての啓発を実施しました。加えて、39人の思春期にあたる女子生徒が、月経衛生対処を含む安全な衛生習慣や、再利用可能な生理用ナプキン(布ナプキン)の作り方についても学びました。課題としては、事業期間中に発生したマグニチュード6.4の地震被災の影響で改修工事が大幅に遅れ、啓発活動の一部を縮小せざるを得なかったことがあげられます。

受益者の声



正しい手洗い方法を知らない生徒が多いなか、半日をかけて手洗いの6つの手順のデモンストレーションを実施。実際に石けんと水を使って手を洗う練習をすることで、殺菌のための手洗い習慣を身につけました。参加者の一人サンジュ・ラワット出身の女子生徒は「これまで、教室が足りず、異なる学年の生徒が壁のない教室で一緒に座って勉強していました。また、トイレの水設備や生理用ナプキンの処理施設がなかったために、女子生徒は学校に来ることができませんでした。今は、きちんとした教室や水道設備が備わったトイレがあることでも満足しています」と語ってくれました。また、スルケット郡ベリガンガ市のダンサラ・ボハラ副市長は、「地理的な問題から、自治体からの出資だけでは不可能であり、非政府組織からの協力が必要でした。遠隔地の学校を支援してくれた日本のドナーに感謝しています」と笑みを浮かべました。